

平成30年7月豪雨

# 災害対応 記憶誌

—災害発生から9か月間の記憶—

令和元年7月 総社市



## 平成30年7月豪雨災害 総社市 災害対応 記憶誌 発刊にあたって



平成30年7月6日、総社市は被災した。  
本市にとって未曾有の大災害となった。

総社市長 片岡 聡 一

7月6日午前9時45分、前日からの雨により、災害対策本部を設置。私はその時胸騒ぎを感じた。その数時間後、この予感は的中する。

午後9時、市内を流れる高梁川の水位が避難判断水位の10.3mを超え、一抹の不安が頭をよぎる。水位は急激に上昇し、12mを超えたとき決壊を覚悟。千人いや二千人の命が奪われると腹をくくったが、自身のツイッターで「逃げてくれ。」と発信し続けた。ツイートをみて、ひとりでも動いてくれたらその人の命は救える、という必死の呼びかけだった。

情報が錯綜するなか、真の情報を得るために奔走。現場は待つはくれない。市民の生命を守るために下す決断にはそれ相応の覚悟が必要だった。瞬時の判断が事態を左右するからだ。

「有事の際は、法律・条例を破れ」

「決断は10秒以内で、責任は自分がとる」

「公平・平等の原則では誰ひとり助けられない」

これは私が、自らに課した3つの掟である。この掟に添い、発災から一週間、職員とともに復興に向けて全精力を費やした。この窮地を救ってくれた支援の輪。千人もの高校生が市役所に結集し、ボランティアの中核となって活動を続けてくれた。

どんな災害でも予想もしないことが次々に発生する。今回の災害において本市が行ってきたことは被災者に寄り添い、すべきことを最速のスピードで行うこと。

この記憶誌は、復興へと駆け抜けてきたこの期間に起きたことを、記憶にとどめるために、そして後世に語り継ぐために記録として残したものだ。同じような災害が発生したとき、今回の災害を教訓として、市民の命を守るために。

# 目 次

第1章 気象と出水の状況	1
1 気象概況	1
2 大雨特別警報	1
3 気象警報等の発表状況	1
4 降水量	1
5 指定河川洪水予報発表状況（高梁川）	3
6 ダム放流量と水位	3
◎ダムの事前放流について	5
第2章 被害状況	6
1 被害の概況	6
2 人的被害	10
3 建物被害	10
4 産業	12
5 公共土木・農林水産施設等	13
6 交通状況	14
7 ライフライン	14
8 災害廃棄物	14
第3章 避難の実態	15
1 避難所開設	15
2 避難所別の避難者数	16
3 ペット避難所	17
4 全避難所開設数、避難者	18
5 避難所運営職員	18
◎下原地区の避難 経過と教訓	19
第4章 市の対応≪総社流≫（発災～復旧・復興に向けて）	21
1 災害対策本部	25
2 市議会の対応	26
3 現地出張所の開設等	26
4 個別課題に対応する体制の整備（「特設チーム」の設置）	28

ア 見舞金, 支援金	28
イ 住まいの支援	29
ウ 農家及び中小企業支援	30
エ 家屋解体	31
5 災害廃棄物処理	32
6 消毒	34
7 フリーマーケットの開設	35
8 罹災証明の発行	36
9 災害復旧工事	36
10 その他	38
11 復興推進室の設置（復興ビジョン・計画作成）	38
12 消防の対応	40
第5章 支援の輪	43
1 ボランティア	43
2 認定 特定非営利活動法人 AMDA	49
3 応援自治体	54
4 リエゾン	63
5 義援金, 支援金等	63
6 主な復興イベント	64
資料・付録	65
高梁川流域浸水図	65
自治体支援（物資）	66
主な支援団体	68
総社市復興ビジョン委員名簿	69
中長期派遣職員名簿	70
緊急速報チラシ（「未曾有の大災害」）	72
総社市における主な災害歴	76
新聞報道	78

（数値については，平成31年3月31日現在とする。）